

# グローバル出荷指数（平成22年基準） について（平成27年Ⅲ期（第3四半期））

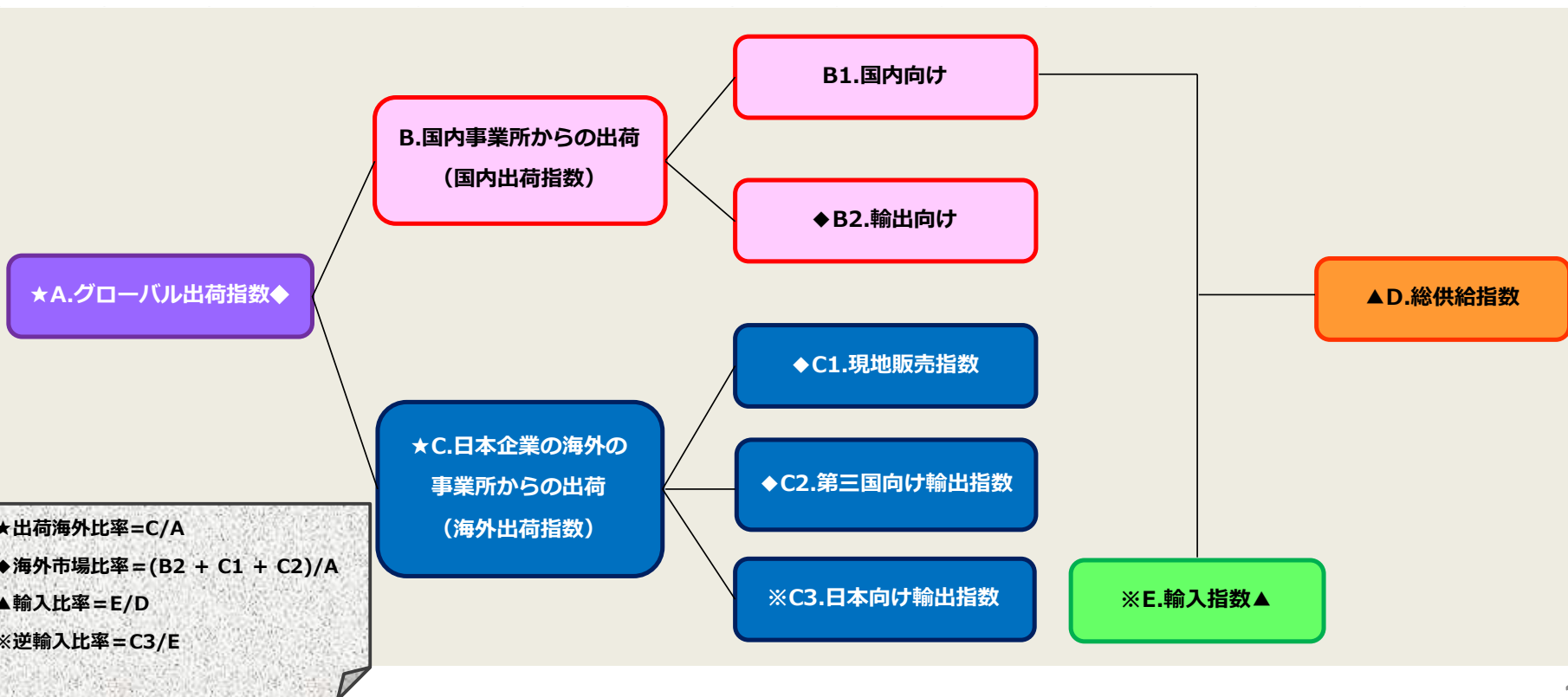
経済解析室  
平成28年1月



ミニ経済分析URL: <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

# グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



# 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	26年度	27年		
		4～6月期	7～9月期	前期比
グローバル出荷指数	104.1	104.1	104.0	▲ 0.1
国内出荷指数	97.6	96.8	96.1	▲ 0.7
国内向け	97.0	96.0	95.1	▲ 0.9
輸出向け	100.0	99.1	99.5	0.4
海外出荷指数	124.4	127.0	128.8	1.4

注1) 27年度の各四半期の結果については季節調整済指数、26年度の結果については原指数。

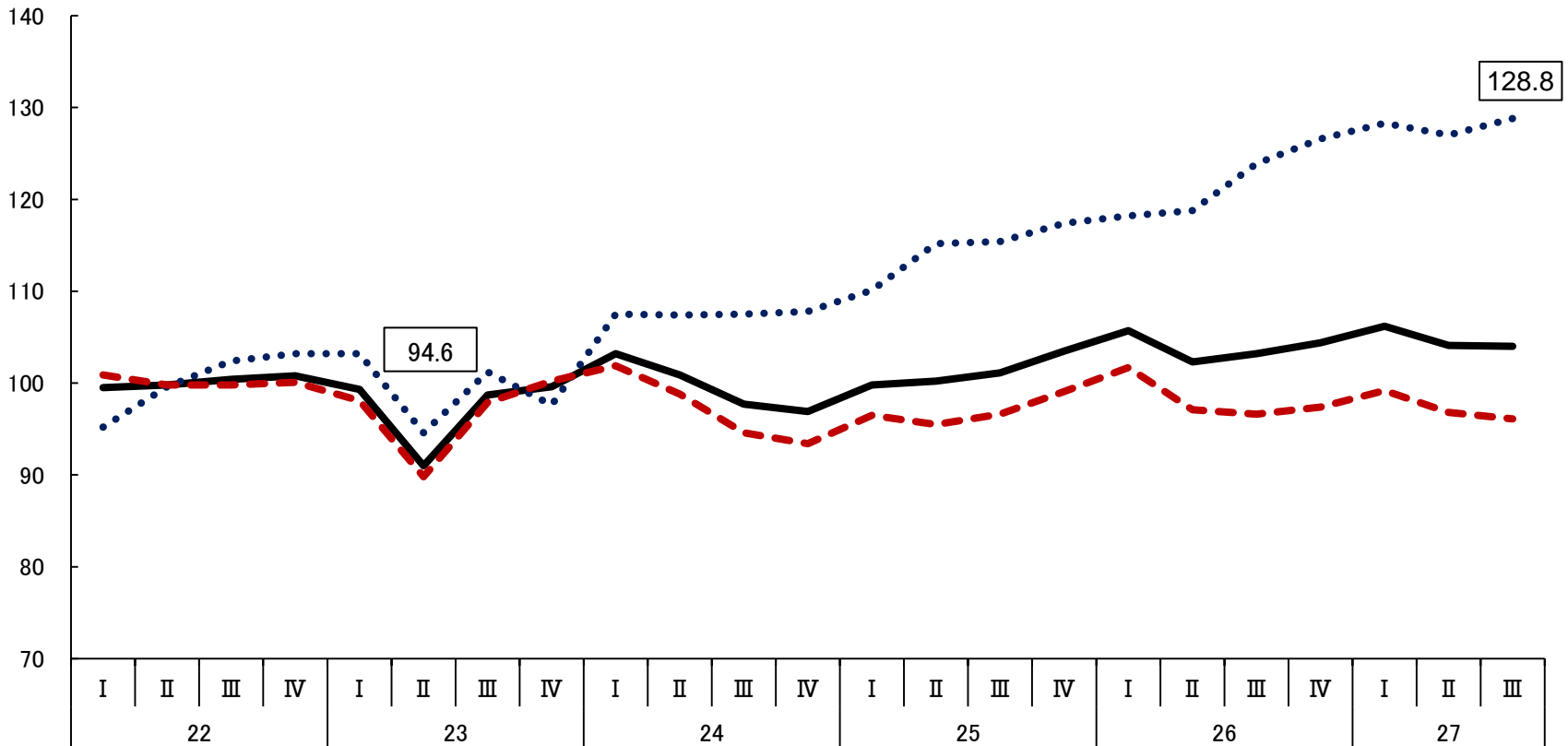
注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

# 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

27年Ⅲ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は、104.0。その中で、海外出荷指数は128.8、国内出荷指数は96.1となった。海外出荷指数は、引き続き上昇トレンド。

（22年＝100、季節調整済）

— 製造業グローバル出荷指数    ●●● 海外出荷    - - - 国内出荷



# 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

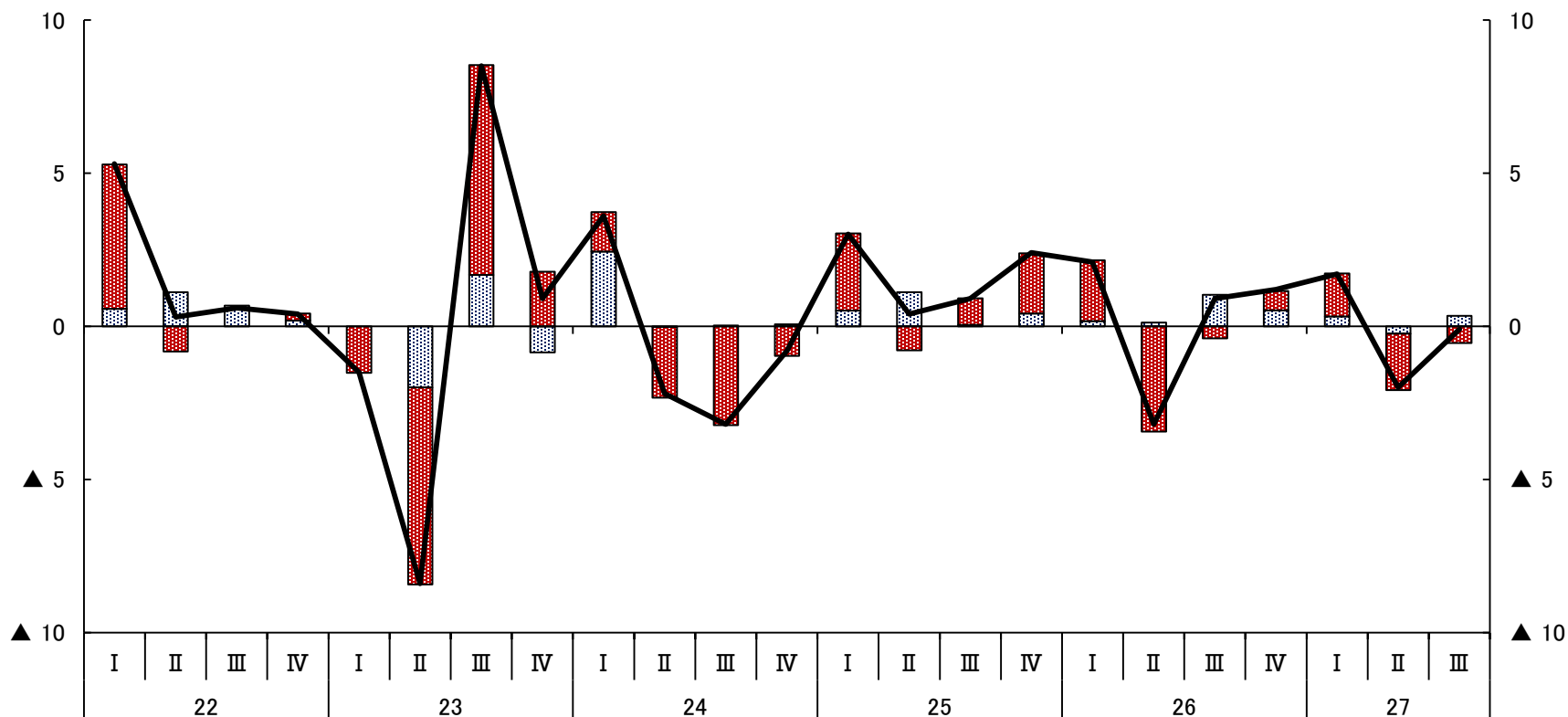
27年Ⅲ期の製造業グローバル出荷指数は、前期比▲0.1%と2期連続の前期比低下。海外出荷指数は、同1.4%上昇。国内出荷指数は、同▲0.7%低下。海外出荷の寄与は2期ぶりに同0.3%上昇した一方、国内出荷の寄与は2期連続の同▲0.5%と低下した。

(22年=100、季節調整済)

国内出荷

海外出荷

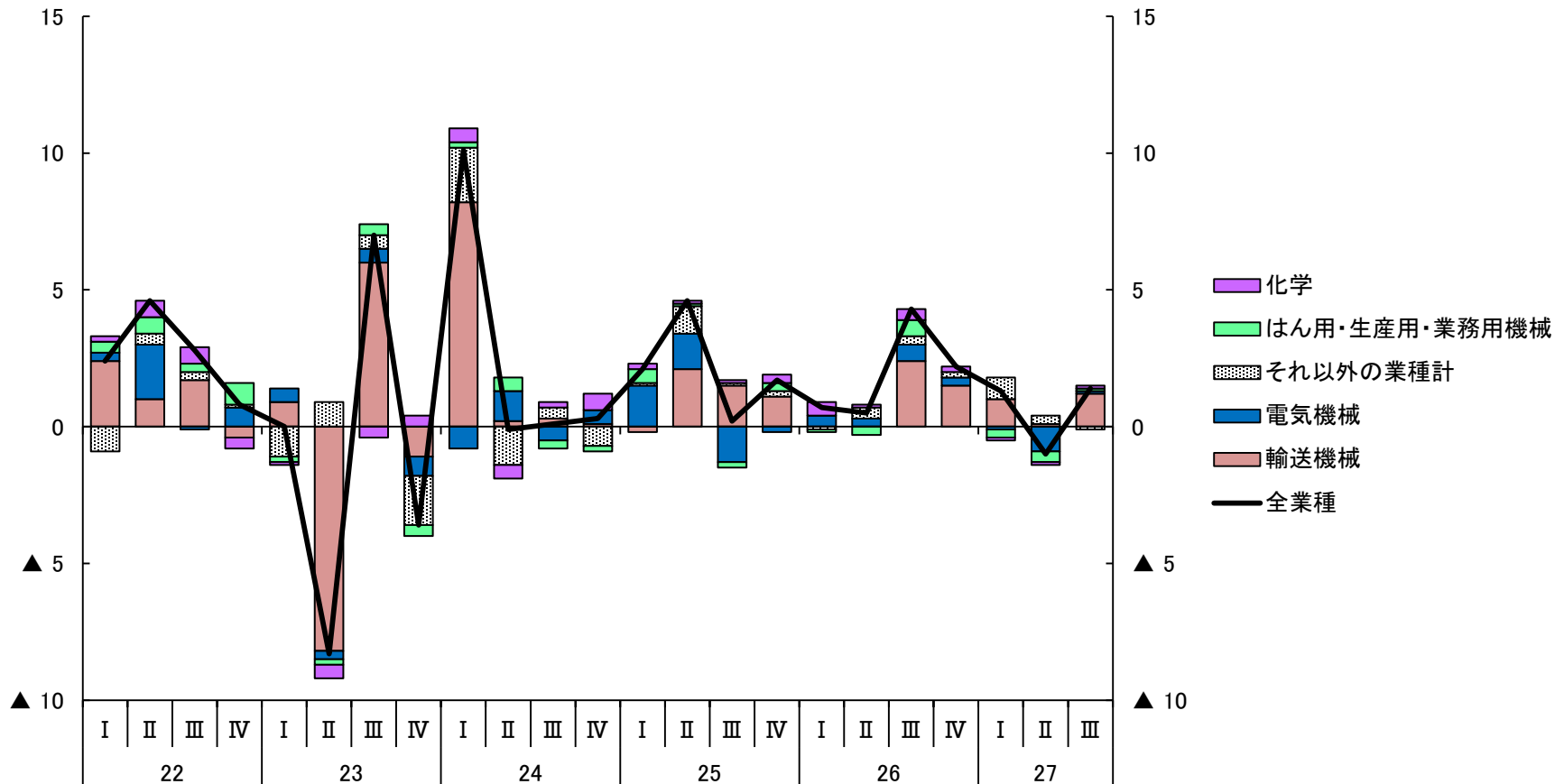
製造業グローバル出荷指数



# 海外出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

海外出荷指数の前期比の業種別寄与度を見ても、やはり輸送機械の寄与が大きい。海外出荷全体の前期比1.4%に対し、輸送機械の前期比寄与が1.2%。電気機械工業の寄与も3期ぶりに上昇寄与となった。

注) それ以外の業種計とは、次の8業種を組み合わせたものである。  
 「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」

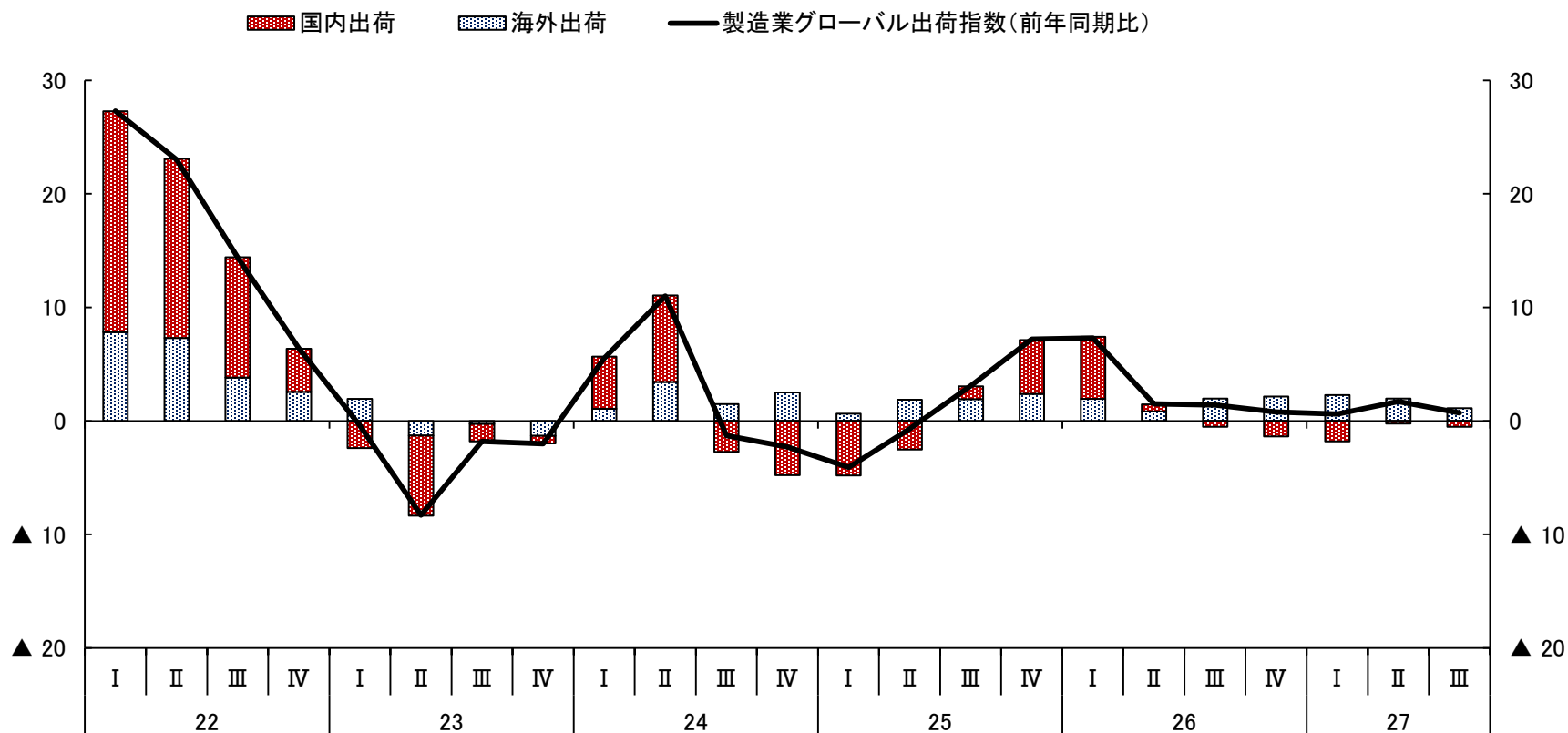


# 製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（総括表）

	26年度	26年	27年	
		7～9月期	7～9月期	前年同期比
グローバル出荷指数	104.1	103.9	104.6	0.7
国内出荷指数	97.6	97.9	97.2	▲ 0.7
国内向け	97.0	97.6	96.5	▲ 1.1
輸出向け	100.0	98.9	99.9	1.0
海外出荷指数	124.4	123.0	127.9	4.0
自国向け	125.6	123.3	131.0	6.2
日本向け	125.1	127.2	125.1	▲ 1.7
第三国向け	131.2	130.5	130.1	▲ 0.3
海外出荷指数	124.4	123.0	127.9	4.0
中国(含香港)	123.8	125.1	127.6	2.0
ASEAN4	113.3	111.5	112.6	1.0
北米	141.4	135.3	153.7	13.6
それ以外の地域	119.1	118.7	117.7	▲ 0.8

## 製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（前年同期比、内外寄与度）

27年Ⅲ期の製造業グローバル出荷指数は、前年同期比0.7%上昇で水準感  
は悪くない。海外出荷指数は、同4.0%上昇。国内出荷指数は、同▲0.7%  
低下。海外出荷の寄与は同1.1%、国内出荷の寄与は同▲0.5%で、今期の  
前年同期比上昇も、やはり海外出荷によるもの。





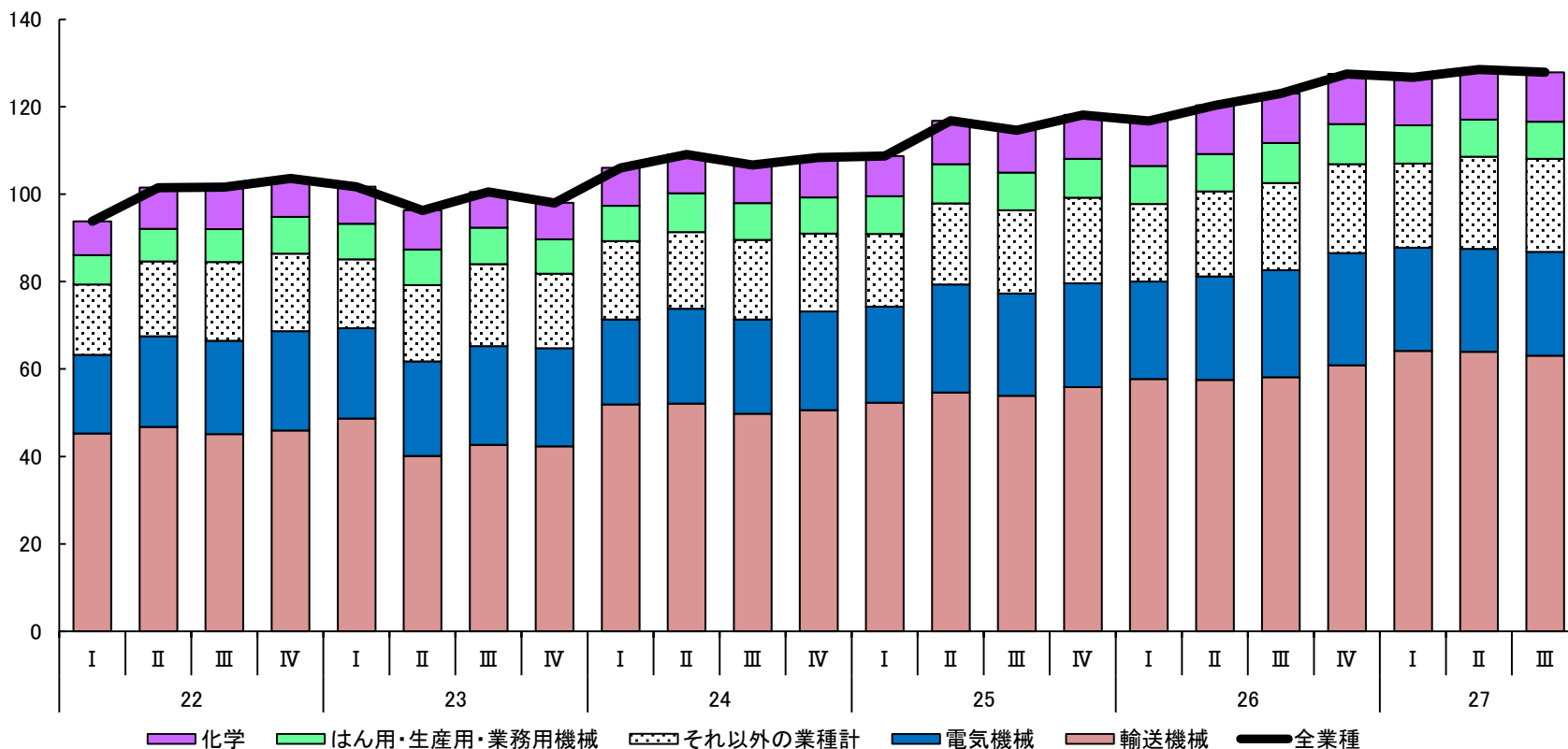
# 海外出荷指数の推移（業種別）

海外出荷指数においては、輸送機械の存在が非常に大きい。これに次ぐのが、電気機械。海外出荷指数に占めるそれぞれの割合は、輸送機械が49.3%、電気機械が18.6%となっている。

注1) グローバル出荷指数における電気機械工業は、鉱工業指数における、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。

注2) それ以外の業種計とは、次の8業種を組み合わせたものである。

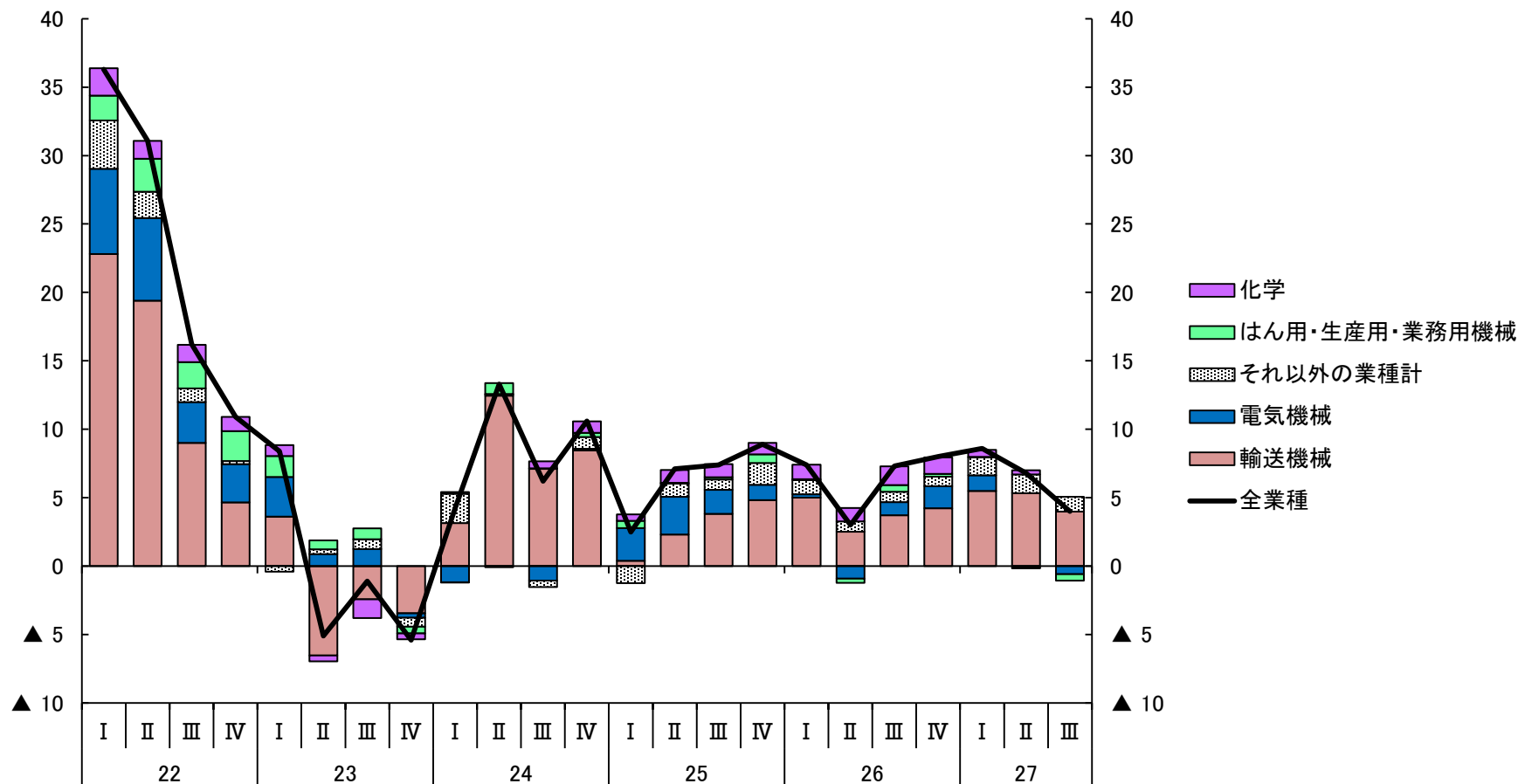
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」



# 海外出荷指数の推移（前年同期比、業種別寄与度）

海外出荷指数の前年同期比の業種別寄与度を見ても、やはり輸送機械の寄与が大きい。海外出荷全体の前年同期比4.0%に対し、輸送機械の前年同期比寄与が3.98%。電気機械工業の寄与は若干低下していた。

注) それ以外の業種計とは、次の8業種を組み合わせたものである。  
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」



# 製造業出荷海外比率（品目ベース）、逆輸入比率、海外市場比率の推移

27年Ⅲ期の製造業出荷海外比率は29.4%となった。

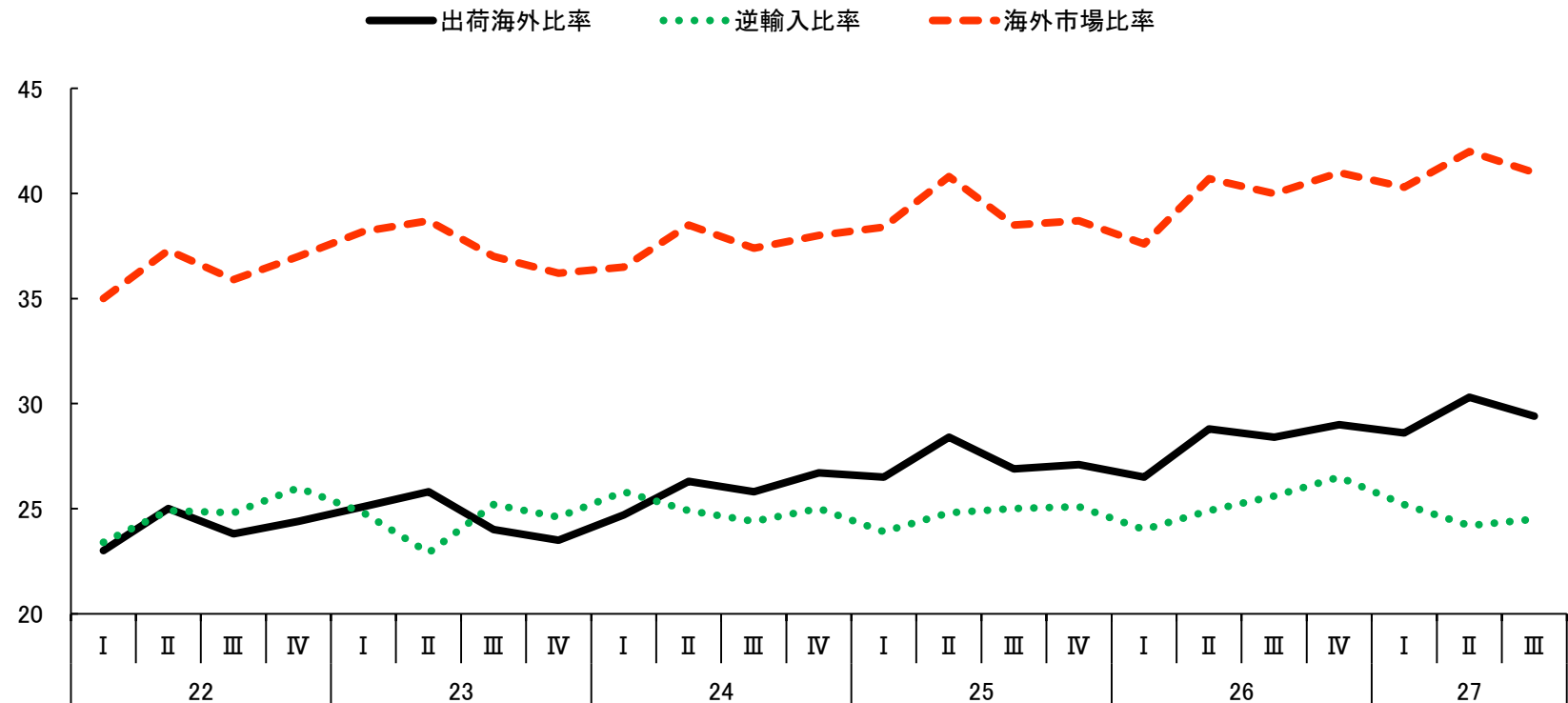
27年Ⅲ期の逆輸入比率は24.5%となった。

27年Ⅲ期の海外市場比率は41.0%となった。

注) 製造業出荷海外比率：日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人の活動の比率

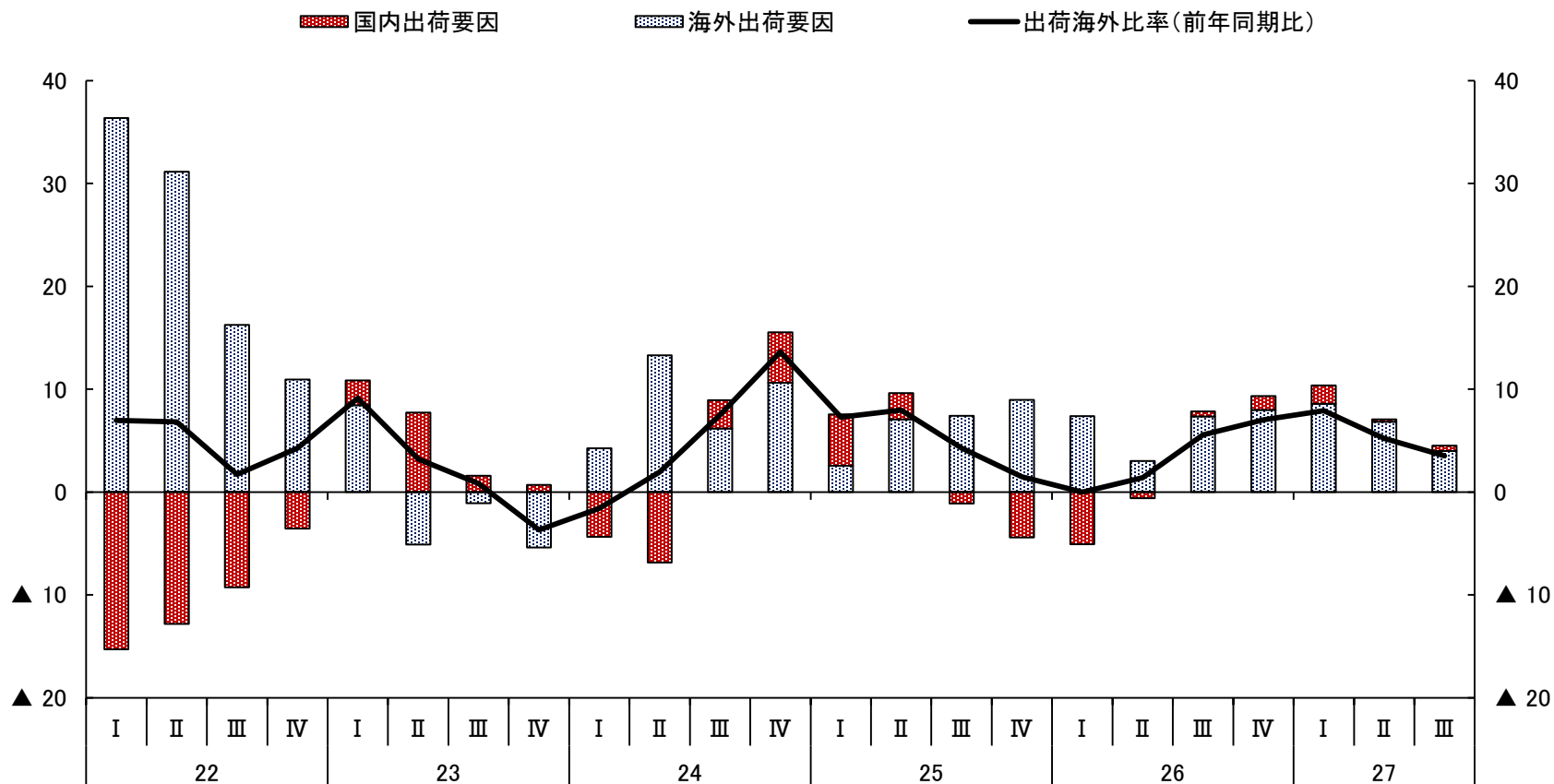
逆輸入比率：日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

海外市場比率：グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合



# 製造業出荷海外比率の変動要因分解

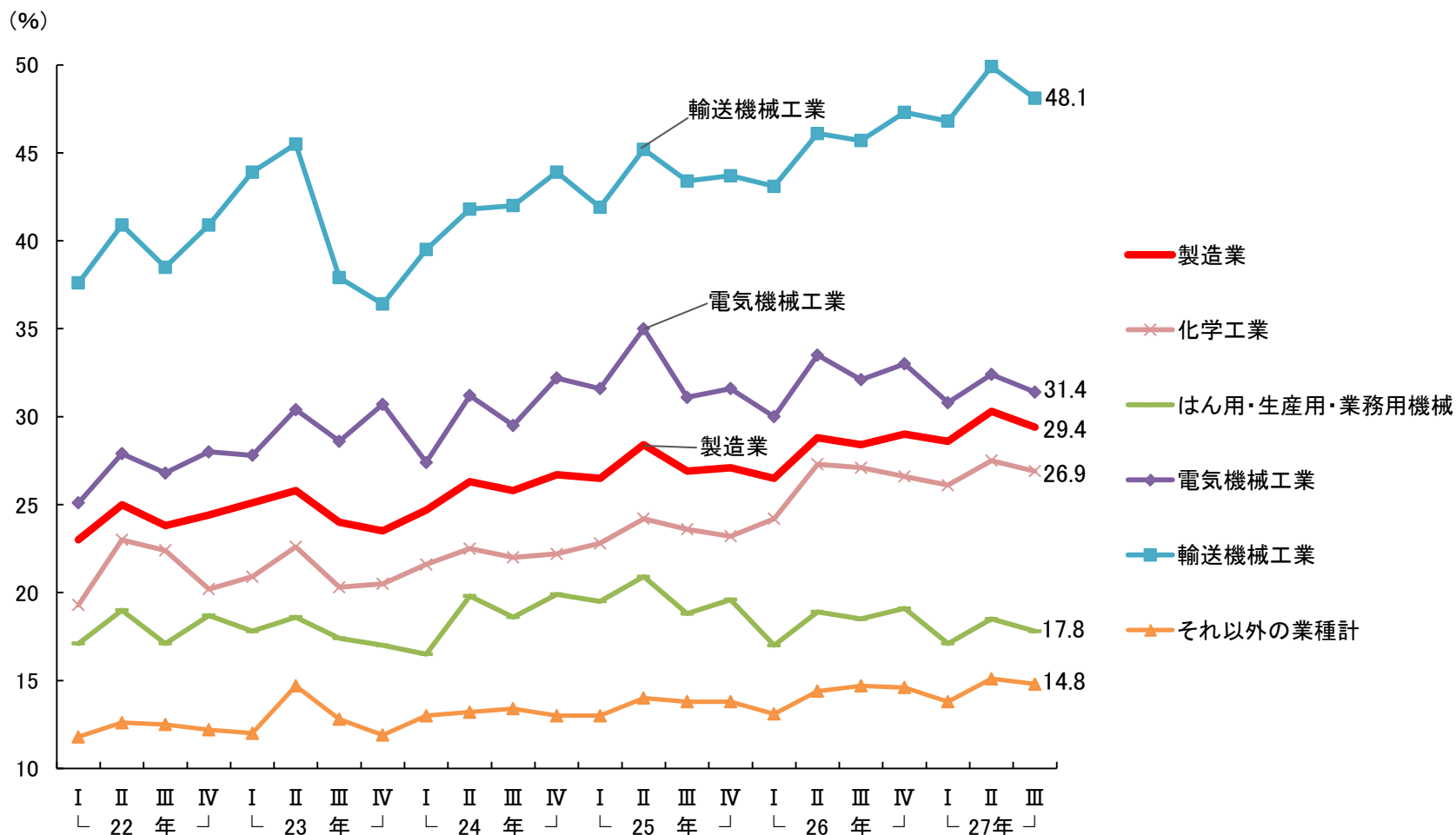
製造業出荷海外比率の前年同期比の上昇に対し、海外出荷の増加である「海外出荷要因」はプラス寄与。国内出荷の低下である「国内出荷要因」も若干のプラス寄与。出荷海外比率の上昇は、引き続き海外出荷の増加によるもの。



# 業種別製造業出荷海外比率の推移

27年Ⅲ期の製造業出荷海外比率は29.4%。

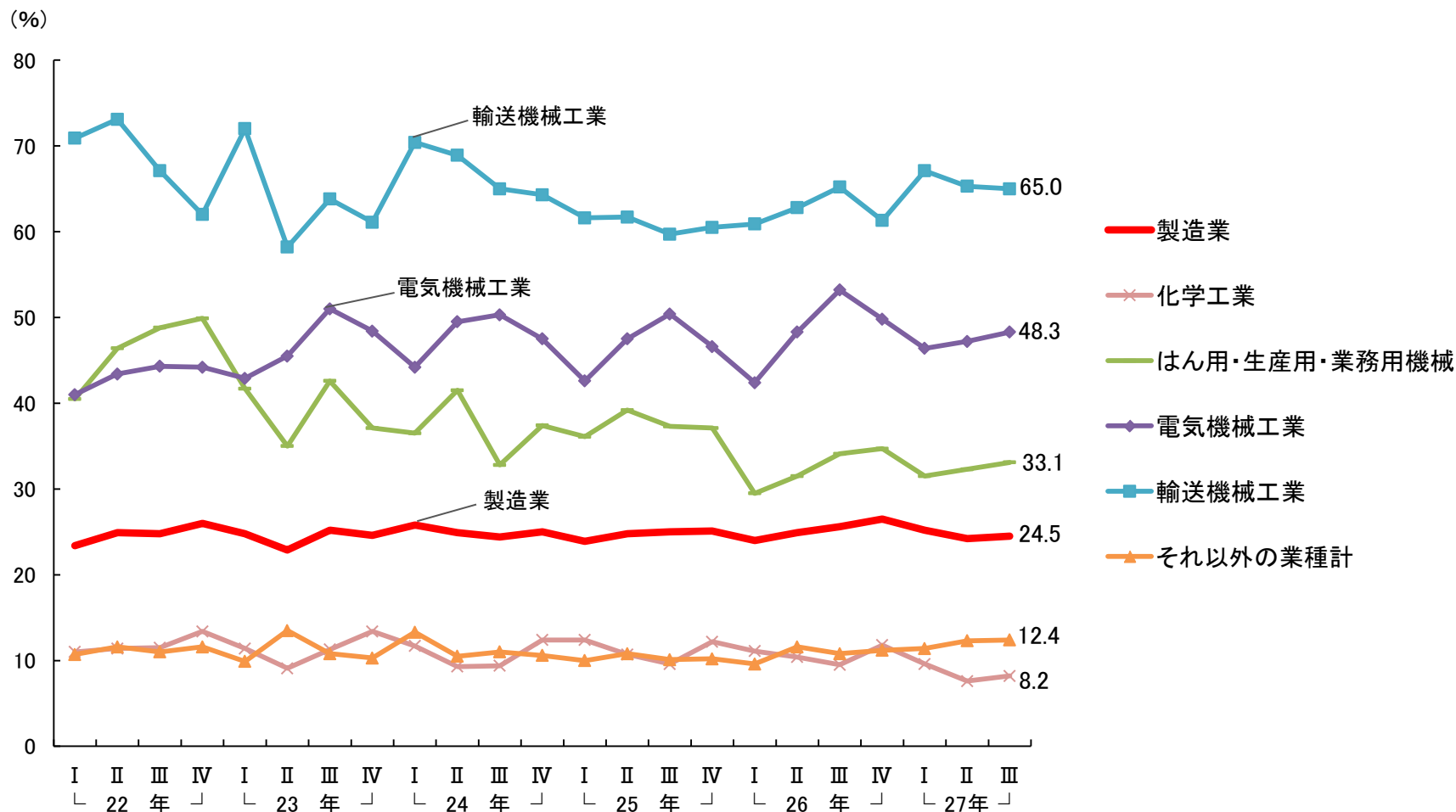
これを業種別にみると、全12業種のうち4業種が前年同期と比べて上昇し、8業種が低下となった。出荷海外比率が高いのは、輸送機械工業と電気機械工業。



# 逆輸入比率の推移

27年Ⅲ期の逆輸入比率は24.5%。

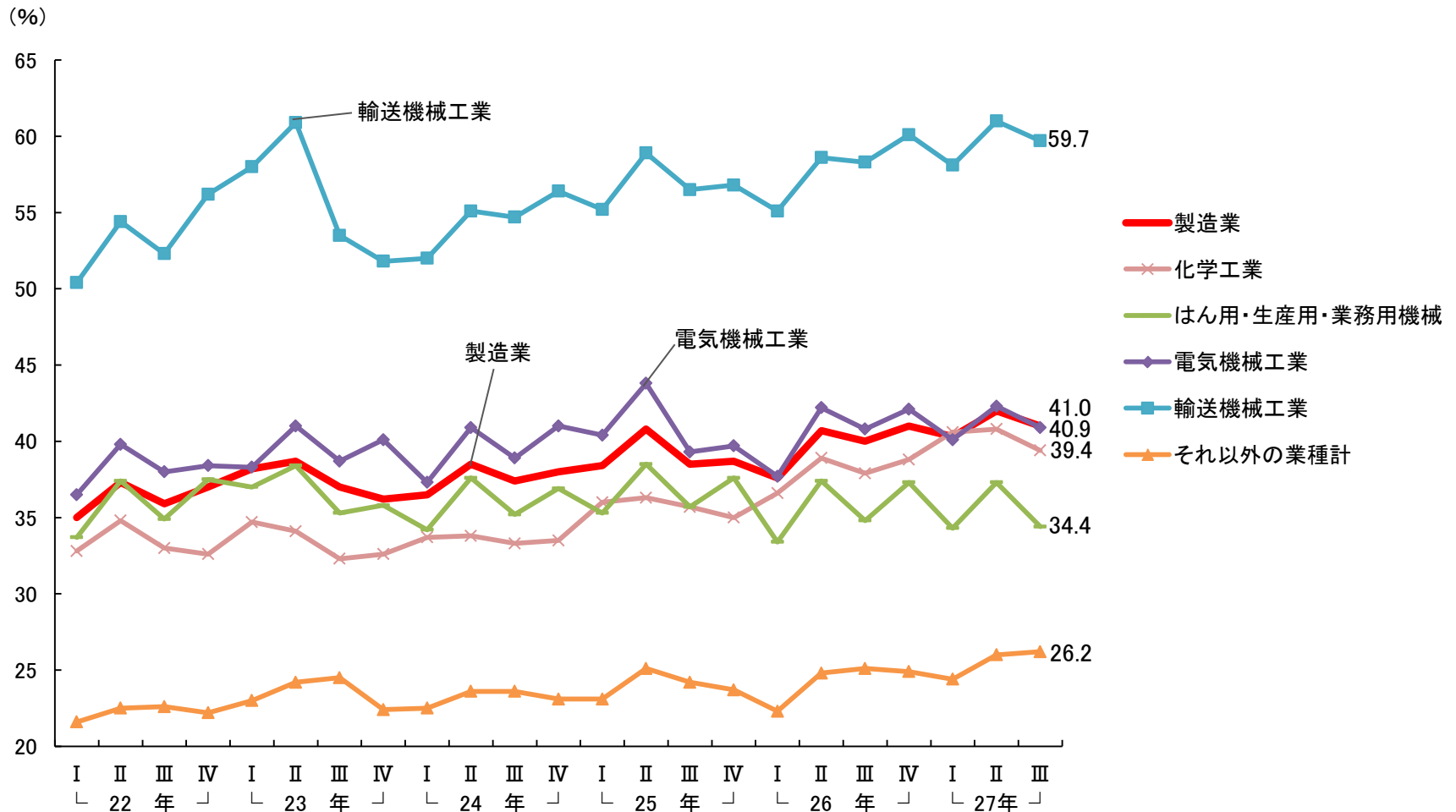
これを業種別にみると、全12業種のうち6業種が前年同期と比べて上昇し、6業種が低下となった。逆輸入比率が高いのは、輸送機械工業と電気機械工業。



# 海外市場比率の推移

27年Ⅲ期の海外市場比率は41.0%。

これを業種別にみると、全12業種のうち6業種が前年同期と比べて上昇し、6業種が低下となった。海外市場比率が高いのは、輸送機械工業と電気機械工業。

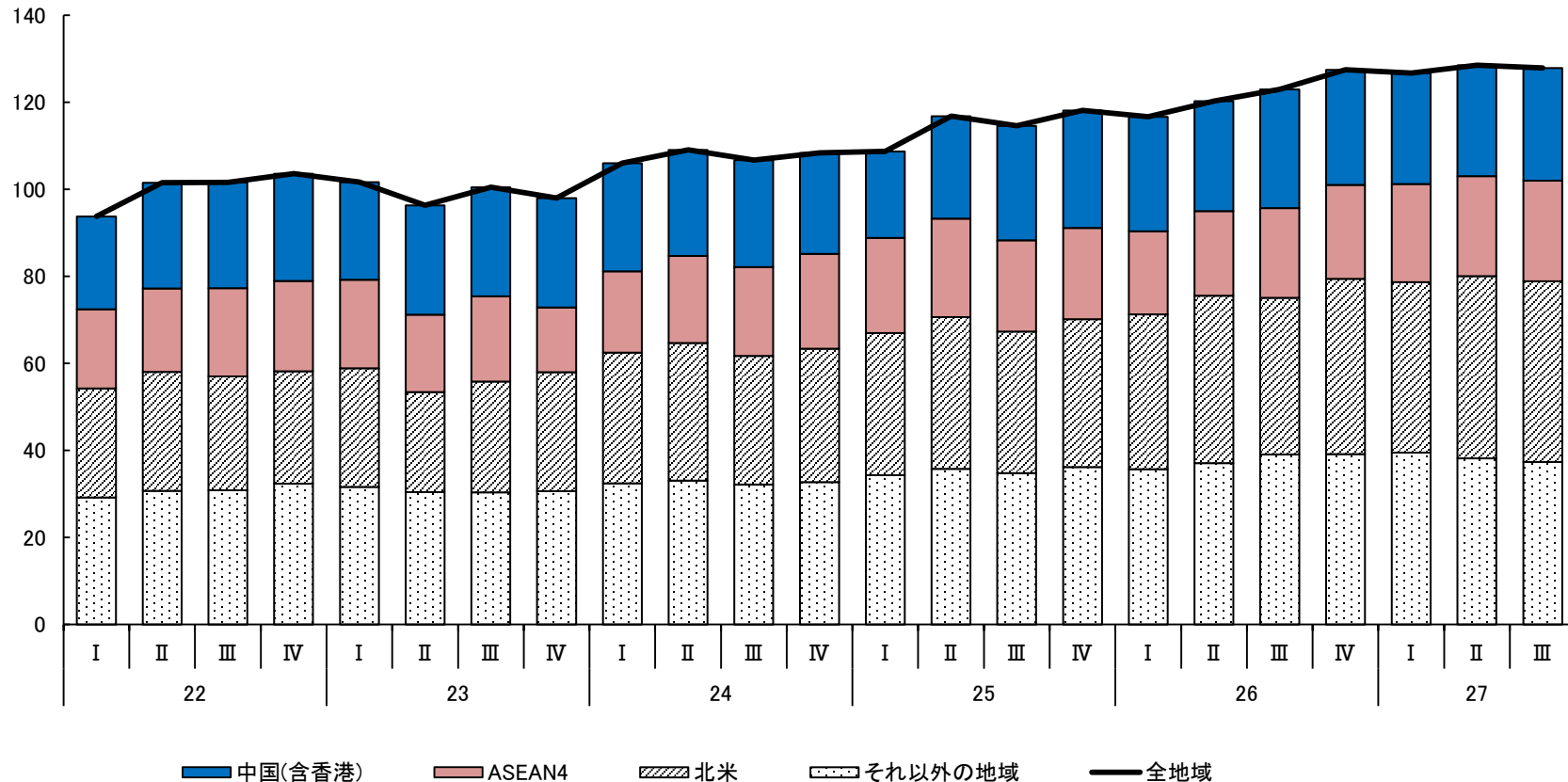


# 地域別海外出荷指数の推移

海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数（財務省貿易統計）を用いて主要地域別のグローバル出荷指数を算出。

27年Ⅲ期の全地域出荷指数は127.9となった。内訳としては、北米の割合が、32.5%で、これに次ぐのが中国(含香港)で20.2%。

注) それ以外の地域とは、次の4地域を組み合わせたものである。  
「NIES3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」



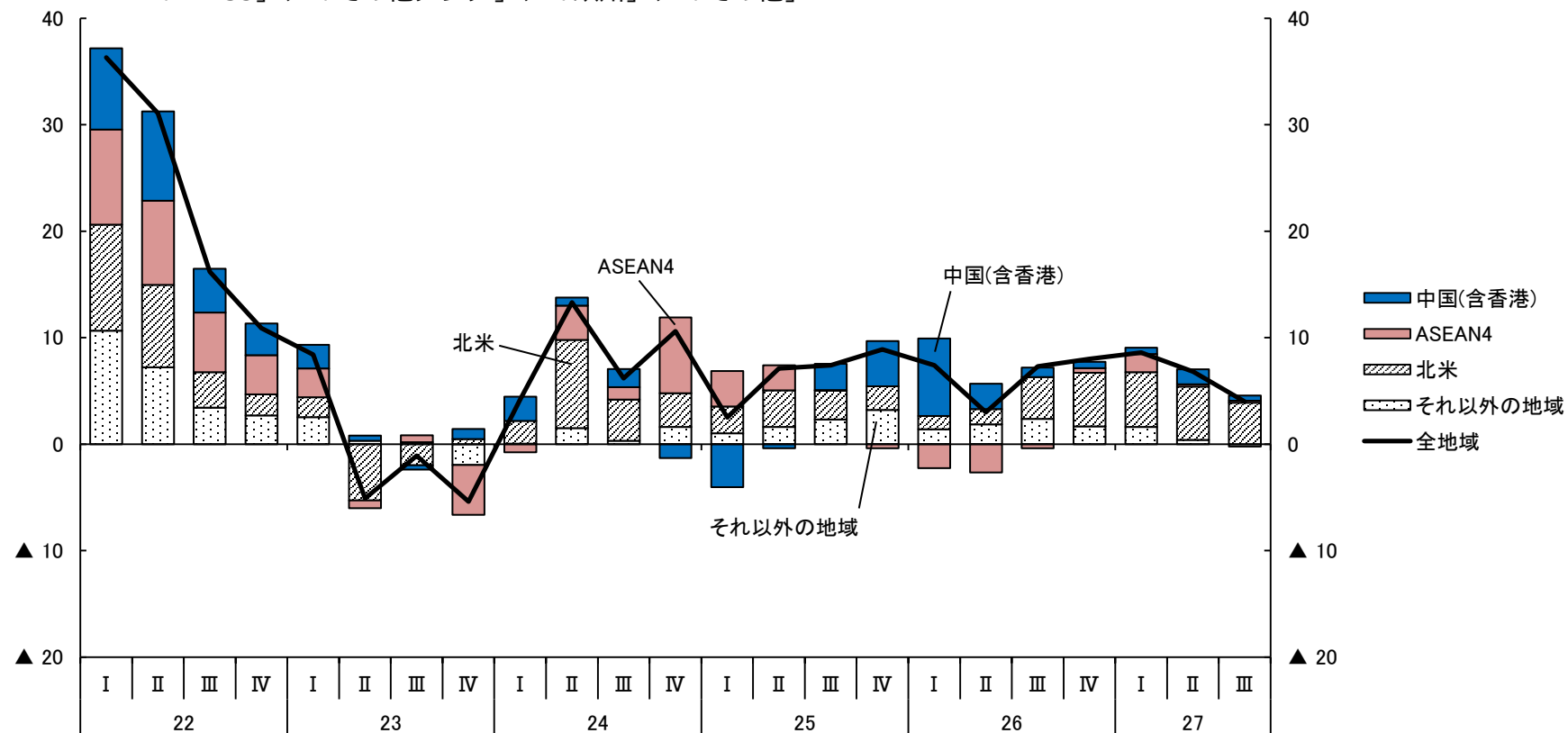


# 海外出荷指数の推移（前年同期比、地域別寄与度）

地域別海外出荷指数の前年同期比をみると、中国は9期連続、ASEANは4期連続のそれぞれプラス寄与となっている。ただし、中国の寄与幅が前期に比べて大きく低下。

また、27年のⅢ期でも、安定的にプラス寄与の北米地域における現地法人の活動が「海外出荷」を支えていたことが分かる。

注) それ以外の地域とは、次の4地域を組み合わせたものである。  
「NIES3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」



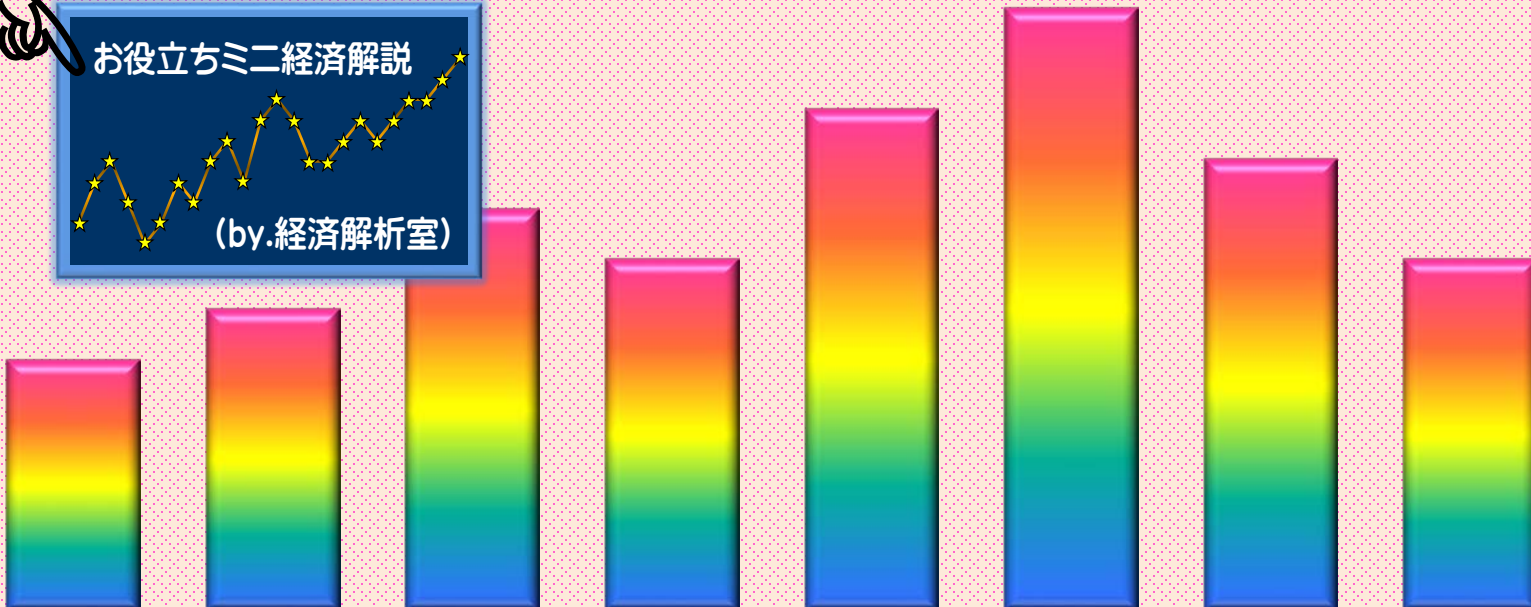
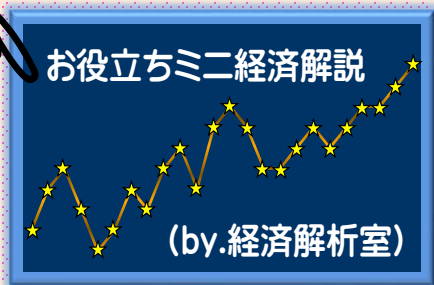
# 注意点

---

- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることなどに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、「産業活動分析」や「ミニ経済分析」等の方法で過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。
- 年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。

# こちら是非御覧下さい！

- ◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります
- ◎ お役立ちミニ経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、お役立ちミニ経済分析、動きで見る経済指標、お役立ちミニ経済解説など